

「西之表市立古田小学校の古田棒踊・古田獅子舞伝承活動の取組」

1. 学校名	西之表市立古田小学校
2. 学年・人数	(1) 古田棒踊：小学校3～6年（計10人） (2) 古田獅子舞：小学校2年男子（子猿：3人）
3. 日時・場所	(1) 練習の日時・場所 古田棒踊：令和6年9・10月（古田小・旧古田中体育館） 古田獅子舞：令和6年9・10月（古田中央公民館） (2) 発表の日時・場所（令和6年度は10月20日雨天のため旧古田中体育館で発表） 古田棒踊：令和6年9月22日（日）校区・古田小合同運動会 令和6年10月20日（日）願成就（古田豊受神社） 古田獅子舞：令和6年10月20日（日）願成就（古田豊受神社）
4. 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事、伝統工芸品について	(1) 名称：古田棒踊（ふるたぼうおどり） (2) 由来：1921（大正10）年に日置郡より安城に移住し、その後、古田に転住した上妻次郎氏が、当時の青年会長（上妻静馬氏）に伝えたことが始まり。その後、古田豊受神社の願成就で奉納されてきた。（鎌2人、棒4人の6人1組） (3) 構成等：【入場→棒突き→本踊り→退場】の4部構成。歌に合わせて約150cmの棒と約70cmの鎌を打ち合う勇壮さと巧みに動くスピード感が特徴的 ----- (1) 名称：古田獅子舞（ふるたししまい） (2) 由来：大分県から椎茸栽培のため古田に移住してきた川野幸太郎氏と石井又蔵氏が古田の若者に教え、1914（大正3）年に、大正天皇御即位記念として古田豊受神社に奉納して以来、願成就に奉納されてきた。 (3) 構成等：獅子・子猿（各2人）、天狗・大太鼓・小太鼓（各1人）、笛（10人前後）で舞を披露する。子猿は小学2年生男児が、獅子・天狗・大太鼓・小太鼓は青壮年が担う。獅子と天狗が激しく闘い、「ホース」の掛け声を発して気合いを入れ、緊迫感に包まれる。子猿は、獅子・天狗の動作を真似て、時に猿同士で争い、舞の道化役を演じる。
5. 文化財伝承・活用の取組において地域との連携や工夫した点等	(1) 古田棒踊 披露に向け、棒踊り保存会の方々に指導を仰ぐ。また、運動会・願成就に、小学生・中学生・高校生が会し、保存会の方々の指導で踊りを合わせる。 (2) 古田獅子舞 願成就前の3週間、保存会の練習に参加し、子猿役の児童は指導を仰ぐ。 ・ 棒踊りに初めて参加する3年生は、保存会の方々や上級生に教えてもらいながら練習をする。また、願成就では中学生・高校生や地域の大人と一緒に踊るため、自分たちも継承していく担い手としての意識を自然ともつ。 ・ 3年生になれば棒踊りに参加できたり、獅子舞の子猿を担ったりと、目標をもたせることができ、学級経営・学校経営にも反映させている。 ・ 各発表前の練習や本番の児童の取り組む様子を、学校だよりやブログを通して、積極的に広報している。
6. 取組の様子（練習状況、発表の場等）	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>運動会での棒踊りの発表</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>願成就での獅子舞の子猿</p> </div> </div>
7. 感想・意見（参加児童生徒・保護者・保存会・教員等）	<p>【2年生児童】獅子舞は練習も大変だったけど、これまでたくさんの方が続けてつなげてきたのはすごいことだと思った。とても貴重な体験をすることができた。</p> <p>【教職員】地域の方々と一緒に練習をする中で、子供たちが地域の方を知るとともに、地域の方々が協力する姿を見て学ぶことができる。また、願成就には多くの方が参加し、その中で披露することで、郷土への愛情を育むことができると感じた。</p> <p>【保存会の方】児童も大人も少なくなる中で、みんなが協力してくれることで継承することができている。留学生は参加することで古田のよさを感じ、思い出にも残ると思う。また、地域の伝統芸能に子供のうちから関わってくれることで、高校や大学進学で島を出た子供も、帰郷してから携わってくれるのでありがたい。</p> <p>【地域の方】100年以上も豊受神社に奉納されてきた古田獅子舞と、子供たちが受け継ぐ古田棒踊は、古田にとって不可欠な郷土芸能。地域の宝である子供たちが次の世代の保存会員になってくれることを願っている。</p>